

3学期が始まってから、約1か月が経とうとしています。3年生は共通テストが終わり、国公立の出願、私立の受験が始まりました。2月25日、26日は多くの国公立の2次試験が実施されますが、一人でも多くの生徒が自分の希望する大学の合格を勝ち取り、納得のいく進路実現を目指してほしいものです。一方、2年生は来年の今頃は志望校の受験に向けて3年生同様に必死に勉強していることでしょう。来年の今頃どうなっていたいかをイメージをしながら、今勉強に励めていますか？ある日突然、勉強ができるようになることはありません。学力をつけるには近道がありませんので時間をかけてしっかりと力をつけていかなければいけません。1年生はとにかく国語、数学、英語に力をいれて、基礎的な学力の構築をしてほしいと思います。3年生になってからは全国を受験生が一斉に一生懸命走りだします。走り出した後では追いつくこと、追い抜くこと、差を広げることは難しくなります。したがって、全国の生徒が危機感がなく、のほほんとしている今が大事です。今の時期にやるべきことをしっかり行い、力をつけていくことが最終的に勝利をしていくカギになります。がんばっていきましょう！



## 共通テスト奮闘、そして、国公立大学への出願！

先月1月14日(土)と15日(日)に共通テストが行われました。理科科目、世界史、英語の難化などがありましたが、昨年よりも総合点は文系、理系ともに上昇しました。特に数学1Aなどは昨年が37点→今年は55点、数学2Bに関しても43点→61点と大幅にUPしました。もちろん、毎年、難易度は異なりますが、基礎的な知識・技能がある生徒、思考力、判断力のある生徒は比較的点数が取れたようです。参考までに大学入試センターが発表した今年の共通テストの結果を次ページに載せておきます。

3年生は共通テストが終わったあとは共通テストの点数をもとに出願校を決めるために担任の先生との面談を行ってきました。国公立大2次試験の出願期間は1月23日(月)から2月3日(金)なので、ほぼすべての生徒が出願校を決め、出願が済みましたが、まだ踏ん切りがつかない生徒や不安に思っている生徒、共通テストが思うようになかった生徒など、まだちょっとエンジンがフル活動していない人もいるかもしれません。しかし、試験は待ってくれません。2次試験や私立大入試に向けて気持ちを切り替えることが大切です。共通テストの結果が良かった人は油断せず、思うような得点が取れなかった人はいつまでもくよくよせず、次の試験に向けての準備に取り掛かりましょう。

また、面談をしている最中にこれまで考えてもいなかった大学の名前が出てきて、急遽受験することになった生徒もいます。そのようなことを踏まえて、比較的時間に余裕のある高1・2生はいろいろな大学について調べ、自分が学びたいと思える大学・学部に出会うことが大切です。具体的な手段として興味のある学問に関する研究が行われている大学について調べたりすることも重要ですが、実際に大学のオープンキャンパスに参加することで感覚的に大学に対するイメージを持てますので、どんどん参加していきましょう。それが今後の勉強に対するモチベーションアップにつながるはずです。

# 令和5年度大学入学共通テスト（本試験）平均点等一覧（中間集計その2）

令和5年1月20日  
独立行政法人大学入試センター

受験者数 471,150人

【調整前】

教科名	科目名	受験者数	平均点	最高点	最低点	標準偏差	
国語 (200点)	国語	445,205	105.74 (52.87)	200 (100)	0 (0)	34.10 (17.05)	
地理歴史 (100点)	世界史 A	1,273	36.36	97	0	16.70	
	世界史 B	78,168	58.43	100	0	20.30	
	日本史 A	2,410	45.40	94	3	15.99	
	日本史 B	136,993	59.75	100	0	17.14	
	地理 A	2,059	55.14	100	0	16.75	
	地理 B	138,972	60.46	100	0	14.32	
公民 (100点)	現代社会	64,651	59.46	100	0	16.00	
	倫理	19,871	59.03	100	0	15.53	
	政治・経済	44,695	50.96	100	0	15.30	
	倫理, 政治・経済	45,561	60.59	100	0	14.07	
数 学	数学① (100点)	数学 I	5,143	37.84	97	0	19.55
		数学 I・数学 A	346,509	55.65	100	0	19.62
	数学② (100点)	数学 II	4,841	37.65	89	0	16.11
		数学 II・数学 B	316,619	61.48	100	0	20.18
		簿記・会計	1,414	50.80	100	0	20.53
		情報関係基礎	411	60.58	100	6	17.62
理 科	理科① (50点)	物理基礎	17,968	28.19 (56.38)	50 (100)	0 (0)	9.64 (19.28)
		化学基礎	95,482	29.42 (58.84)	50 (100)	0 (0)	10.53 (21.06)
		生物基礎	119,698	24.66 (49.32)	50 (100)	0 (0)	10.14 (20.28)
		地学基礎	43,054	35.03 (70.06)	50 (100)	0 (0)	10.48 (20.96)
	理科② (100点)	物理	144,866	63.39	100	0	22.72
		化学	182,168	48.56	100	0	19.82
		生物	57,875	39.74	98	0	14.80
		地学	1,655	49.88	100	0	20.57
外国語 (100点)	英語(リーディング)	463,805	53.82	100	0	20.98	
	英語(リスニング)	461,832	62.35	100	0	18.82	
外国語 (200点)	ドイツ語	84	121.67 (60.83)	200 (100)	23 (11)	50.53 (25.26)	
	フランス語	93	131.72 (65.86)	200 (100)	41 (20)	42.16 (21.08)	
	中国語	736	162.59 (81.29)	200 (100)	34 (17)	29.36 (14.68)	
	韓国語	185	158.51 (79.25)	200 (100)	0 (0)	41.34 (20.67)	

(注1) 平均点, 最高点, 最低点及び標準偏差欄の ( ) 内の数値は, 100点満点に換算したもの。

大学入試センターHP より

## 国公立2次試験、私大入試に向けて

大切なことは大学の傾向をよく知ったうえで、何を求められているのかがわかるくらい、過去問を解くことでしょうか。例えば、東大の英語では要約、リスニング、正誤問題、自由英作文、小説の読解などと多種多様な問題が出題されます。なぜ要約問題が出されるのでしょうか？上に立つものとしてさまざまな提案が部下から上がってくることがあります。それを上司が出席する会議や社長に端的に伝える必要があります。素早く要旨を読み取り、まとめ、端的に説明するといった将来のリーダーの資質を問うために要約問題を出しているように思えます。他大学の入試にも、こうした学生がほしいというメッセージが込められていますし、大学ごとに傾向が違うのはこのためです。大学ごとに傾向と対策が違いますから、その大学の入試に合わせた勉強をしていきましょう。また、問題を解いた後は学校や塾の先生に添削してもらうことが大切です。添削指導では、「どこが、どうしてダメか」「どうすればよいか」と考えるきっかけになります。こうした添削を繰り返し受けることで、採点者の視点が徐々に養われていき、どういった解答を作ればよいか理解できるようになります。我流はいけません。残り、数か月体調に気を付けて、最後まで走りぬきましょう！

## 手続きは親任せにしないこと

多くの私立大学は、合格すると「入学手続き」として「入学金」と「授業料半期分」を納めさせます（学校により異なるので注意）。その後、国立大学試験、または他の私大の試験に合格すると、「入学手続き」をした私立大学に「入学辞退手続き」をすることになります。「入学金」は「入学手続き」をするためのお金で、すでに「入学手続き」をしたので返還されませんが「入学辞退手続き」をすると「授業料半期分」が返還されます。しかし、過去にある生徒がこの「入学金」の支払いを親御さんに任せっぱなしにしており、親御さんの勘違いにより、支払日が過ぎていたことがありました。それに気がつき、学校にどうしたらよいかという電話をしましたがその後、大学に問い合わせても「期限は期限ですから」といって、認めてもらえませんでした。その結果、私大にせっかく受かったにも関わらず、その合格自体無効となり、残念ながら国立二次試験では合格が勝ち取れず、3月の合格発表後にこれから出願できる学校はないかと探したことがあります。自分の進学のことですから、余裕をもって、親任せにせず、自分でも期限を確認しながら、ミスのないように行ってください。

## 英検全員受験開催

1月20日(金)に1学年全員を対象に英検の全員受験が実施されました。現在の大学入試制度では英検2級をもっていることで加点されたり、満点換算になることがあります。こんな便利な制度は利用しない手はありませんので二年生までに取得をしてどんどん活用していきましょう。ただ、一つ注意点があります。英検の合格だけでなく、点数が大事です。たとえば、明治大学の経営学部では、以下のような英検利用の受験制度があります。

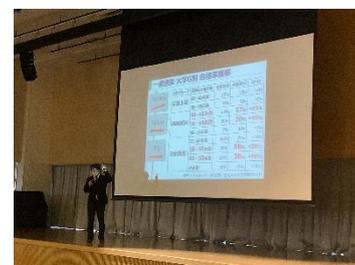
- ・準1級合格の場合:英語の得点を150点に換算
- ・2級合格かつ英検スコアが2,088以上の場合:英語の得点を135点に換算
- ・2級合格かつ英検スコアが1,980以上の場合:英語の得点を120点に換算

英検

スコアによって受験時のテストの点数が異なったり、もしかしたら合格自体の価値があまりないものになってしまう可能性があるので、合格、不合格だけでなく、点数を意識していく必要があります。こうした制度は一発の勝負ではなかなか力が発揮できない生徒にとってはとてもよい制度ですね。どんどん英検にチャレンジしていきましょう！

## 第7回 保護者対象進路研究会の実施

1月21日(土)本校武揚ホールにて、ライセンスアカデミーの平川けん先生をお招きし、第7回保護者対象『進路研究会』を開催いたしました。今回は『最高の勉強法を身につけて、希望する進路を実現する全国模試の総合1位の勉強法』と題し、まずは2022年度の入試の振り返りながら、現在の入試制度とご講義をしていただきました。主な内容的は、



- ・全体的に難関大学ほど基礎学力を重視した問題が多いため、高校の授業を大切にして基礎学力を上げていく必要がある。
- ・大学合格のために必要な勉強方法について記憶のメカニズムを考える必要がある。脳はストレス情報を拒絶するということをプログラムされており、ものごとをプラスの感情をもって、主体的に取り組むことで脳が活性化して、記憶もできる。
- ・ストレス情報とは強制的に取り組むもの、嫌・面倒という感情を伴う知識や情報、苦手意識を伴う知識や情報をいい、こうした負の感情をもって勉強をすると記憶の定着が悪くなる。
- ・記憶の定着のためには丸暗記ではなく、エピソード記憶が効果を発揮するため、勉強したことを説明したり、語ってみることで記憶が定着する。その説明の時には自分で図式化して、あたかも自分が先生であるかのように(自分自身や相手に)説明していくのが良い。

今回は保護者だけでなく、生徒の参加もありましたが、ポジティブな感情をもって取り組んでいこうと決意した様子でした。2月18日(土)も第8回保護者対象進路研究会が実施されますので、保護者、生徒のたくさんの参加をお待ちしております。

## グローバルコース1年生オーストラリア、カナダに出発



1月下旬、Gコースに所属する1年生14名がオーストラリアに、1名がカナダへと旅立ちました。1月14日(土)には留学を控える1年Gコースのための留学壮行会が行われ、校長先生、Gコース主任の澤田先生から激励の言葉をいただき、最後は生徒代表からの決意発表がありました。当然、1年間の留学に行くことで日本の勉強が遅れるというデメリットはありますが、それと同じくらいに語学力の向上、グローバルマインドの構築、積極性・主体性の向上などさまざまなメリットがあり、将来の進路にとってプラスになることも多くあります。現地からは留学早々「ホームシックになった」「なかなか現地の生徒の英語がわからない」「生徒の輪の中に入っていけない」などといった留学特有の問題に直面している生徒も多々いますが、自分たちで決めた道ですから誇りをもって、堂々と、そして、さまざまなことに挑戦し、乗り越えていってほしいと思います。



## 併設大学(農大・情報大)優先入試を終えて

みなさんをご存じのように農大二高は東京農業大学と東京情報大学の併設高校であり、特別な優先入学の枠がありますが、今年度は昨年度よりも受験した生徒が増加し、農大(専願)35名、農大(併願)7名、情報大3名、計45名の生徒が優先入試制度を利用しました。総合型選抜は農大・情報大を第一志望とする生徒を対象とした入試制度で、併願総合型選抜は国公立大学を第一志望としている生徒を対象とし、総合型選抜と同様の試験内容で合否を判定する入試制度です。この併願総合型選抜は国公立を受験する生徒には大変便利な制度なのです。というのも、理系の受験生たちは国公立大学を受験する場合、いくつか私大の併願校を受けることとなりますが、この制度を使い、農大から合格が出れば、無駄にいろいろと私大を受ける必要もなく、思いっきり国公立試験で勝負することができます。受験は体力だけでなく、お金も使いますので、その両方をセーブできると考えれば利用しない手はありません。もちろん、併願総合選抜の基準は低くはないですが、努力次第でどうにでもなる基準です。普段から勉学に励み、基準を満たし、利用していきましょう。

今回の優先入試を終えて感じたことですが、生徒は“農学に対する理解”と“十分な受験勉強”が必要であるということです。まず、農学に関する知識をつけ、自分なりに課題意識を持つことが大切です。優先入試では出願時の志望理由書の他に、事前課題が課せられます。課題のテーマは学科ごとに異なりますが、受験生の学部学科に対する理解を高めさせる狙いがあります。面接試験でもその内容について詳しく質問されるため、十分な準備をして取り組む必要性があります。つまり、「併設校の入試ならばあまり準備は必要ないだろう」という安易な考えではいけないのです。

さらに校内選考試験の難易度は共通テストレベルに設定されており、一般入試と同等の対策が求められます。知っての通り、共通テストは単純な知識そのものを問うのではなく思考力を必要とする問題が多く出題されています。したがって、「併設校入試だから学力がなくても受かるだろう」という安易な考えではいけません。これからの農学の将来を担う学生にはある一定の学力はつけてきてほしいというメッセージです。

大学の価値は教員の質やプログラムや施設の充実といったものによって決まりますが、そこで勉強した学生の卒業後の活躍が大学の価値を高めます。したがって、今のうちから勉学に励み、この分野の研究が行いたい、併設大学でこそ自分の夢が実現できるという目的意識の高い生徒が進学をし、農学の将来を担う人材に成長して欲しいと思います。来年度の4月には併設校の全体説明会があるので、興味がある生徒はぜひ参加してみてください。

## 今後の模試予定・進路行事

<1,2年生>	2月5日(日)	Z会アドバンスト(1年Iコース全員、他希望者)
	2月5日(日)	駿台全国模試(2年Iコース全員、他希望者)
	3月22日(水)	到達度テスト(1,2年全員)
<3年生>	2月25日(水)、26日(木)	国公立個別試験 *気持ちを切らさず!
<行事予定>	2月18日(土)	第8回 保護者対象進路研究会「農大・情報大の魅力について」
	3月18日(土)	第9回 保護者対象進路研究会「今年度の入試の総括」